



美味しい野菜を安心して食べたい！！

そんな私たちの思いをかなえる生活クラブの野菜。異常気象など今までになかったことが起こり続け、野菜や果物など豊作とは程遠い印象です。2月28日～3月1日生産者に会いに長崎の島原半島に行ってきました！！
2回に分けて報告します。

白ネギはなぜ白い？

畑にびっしりと青々と育った白ネギ。畑からはネギの刺激のないにおい。まもなく収穫され、やさいBOXに入って私たちに届きます。

島原自然塾の白ネギ部会長の吉田さんはネギ作り21年目。他産地から作り方を習いに来るほどの凄腕生産者です。6月に種をまきその後2か月は苗作り。苗床に入る時はくつを履き替え、着替えをするときもある。自分以外は入れないという徹底した管理ぶり。それもこれも虫や菌など持ち込まず、いい苗を作るため。畑で1本抜き、外皮をはがした白ネギの白さはまぶしくて目がくらみそうでした。美しい。

その白さを生み出すひみつ。それは、土寄せ。苗を植えてから半年間、畝に土を横から寄せて積み上げていきます。土に埋もれることでネギはあお色から白色になっていくそう。土寄せは5回。畝は切り立った崖のようです。6月に種をまいた白ネギが、記録的な夏の暑さと台風にも耐えこの3月にいよいよ収穫出荷。とうが立つ前の3月中に収穫します。

見学した畑は無事収穫を迎えましたが、5反(50a)の畑では暑さのため、苗がダメになってしまったそうです。雨が少なかったため水気が少ないけれど甘い白ネギが出来ています。ご賞味あれ。届くのが楽しみです。



にんじんはだいじょうぶ

12月下旬と1月中旬に種まきをした畑。トンネル栽培のビニールが張られています。中を覗いてみると、小さな双葉のもの、双葉からにんじんのギザギザの葉が出てきているものが。そして既に雑草が生えてきています。草は約3回手作業で抜くそうです。話をしながらも生産者の酒井さんの手は雑草を抜いています。とても手のかかる作業だと思います。感謝しかありません。4月に大きくなって会えるのを大阪で待っていますね。



(有)島原自然塾はにんじん、(株)産直南島原はじゃがいも、玉ねぎ、そして共にやさいBOXの野菜の生産者団体です。若い生産者も多く希望の産地です。

レタスの品種は30以上

訪問した日は、4月下旬並みという暖かい日でしたが、ここ産直南島原の井上さんのレタス畑はひんやり。普賢岳からの吹きおろしがあるからとのこと。

レタスは9月下旬から2月末まで植え付けが続きます。そして収穫は12月～5月下旬まで。収穫時期を逆算しながらずらして植え付け、品種も時期に合わせ10種類以上使っています。生長期間も40日～120日と幅があるそうです。

まもなく出荷のレタス畑には薄い白い布が掛けてありました。寒さとヒヨドリよけだそう。その布も倍に値上がりしたとのこと。また、9月下旬の大雨で畑が浸水し、2反(20a)くらいの畑で病気や根腐れで廃棄処分になったそうです。大雨で浸水した畑の写真は水田のようでつらい光景でした。今できているレタスも中がどうなっているか？厳しい生産現場です。

もうすぐ収穫の畑のレタスたち無事に出荷できますように。



キャベツ畑の酒井さん



レタス畑の井上さん

キャベツの悲劇

価格高騰がニュースで流れ続けているキャベツ。悲惨な畑を映像で見る機会もありましたが、ここ島原も例外ではありません。訪れた畑の半分は、昨日収穫が終了したところ。猛暑、病気、ヒヨドリ、虫の被害、そして大きにならない。例年なら2、3回の収穫で終わるところも、成長がまちまちなので4、5回かかったとのこと。傷んで出荷できないものも多数。その残骸が畑に残されていました。そして畑の半分ではキャベツがひらひらと？植わっています。1週間ずらして植え付けをしましたが、寒波が長かったため成長せず結球していません。このまま花芽がついてしまったらもう出荷できません。今までになかったことだと話されました。キャベツ頑張れ。島原自然塾のキャベツが届いたら万歳します。